

**第502回 9月27日開催
出席委員（50音順・敬称略）**

荒巻 裕	伊藤 芳明
大村 英昭	木下 明美
森 輝彦	倉光 弘己(書面参加)
黒田 勇(書面参加)	

◆ テレビ番組

オペラの聖地を魅了した熱きサムライ指揮者

「魂のタクト～大植英次バイロイトに立つ」

9月4日（日）24時30分～25時30分放送

毎日放送の第502回番組審議会は9月27日大阪市北区の本社で開かれ、9月4日に放送したテレビ番組・オペラの聖地を魅了した熱きサムライ指揮者「魂のタクト～大植英次バイロイトに立つ」を審議しました。この番組は高い人気と格式を誇るドイツのバイロイト音楽祭に、日本人指揮者として初めて抜擢された大植英次さんの音楽活動、日常生活を密着取材、「指揮者」というリーダーの役割、存在の魅力を描いた1時間番組です。

委員の主な意見

- *バイロイトで指揮をするという子供のころからの夢をかなえた男のすごい表現力、人間的魅力が1時間の番組に凝縮されている。絶賛したい。
- *指導力とか人間的な魅力とかを、音楽というひとつのテーマをとおしてわからせる、いい番組。バイロイトの舞台裏にカメラが入ったのはすごいことで、ほかのメディアはだめだったのに、取材できたMBSのプロデュース力の舞台裏も知りたい。
- *バイロイト音楽祭を前にご両親と話す機会があったが、感じたのは、普通のサラリーマンの家庭から、音楽の天才が出たということ。お母さんは「ホテル暮らしで、奥さんもいなくて、食事をどうしているのか」と。音楽の天才を息子にもった両親の話をもっと番組に入れるのも面白かったかも。
- *毎年やっている音舞台をはじめ、音楽にちなんだドキュメンタリー番組をヒューマンタッチでつくっていく毎日放送の番組作りの蓄積、力を感じた。

- * 大植さんを語るには、「リーダー論」というコンセプトでは足りない。例えばマエストロ、巨匠の生きざま、そういうテーマをもつと、生活も演奏もスコアリーディングも家族問題も、もっと秀でた人間として奥深い、多角的なことをえぐれると思う。
レーティング等の問題があろうかと思うが、年間をとおしてこの種のすぐれた音楽番組をもっと放送してほしい。
- * 大植英次の人柄と音楽に取り組む姿をうまく紹介した番組。あのマーラーのものすごい量の楽譜を、寝ることも忘れてすべて覚えるという集中ぶり。寝食を忘れても、音楽を忘れるときはないというあの暮らしぶり。タコヤキを食っても、ツマヨウジがタクトになっているのは、その言葉に嘘がないと思わせる。
- * 何度も「東洋人初」「東洋人として初めて」という言葉が出てきて、違和感を覚えた。「日本人」が世界で活躍することを描くのがこの番組のコンセプトだろうが、それが強調されると、「西洋の中心性」と「日本の辺境性」が強調されるという皮肉な結果になりがちではないだろうか。

◆ 日本放送文化大賞・近畿地区審査について

今年からスタートした日本放送文化大賞の近畿地区審査について、報告が行われました。

◆ テレビ・ラジオの10月編成について

テレビ、ラジオの10月編成の概要・特徴について、編成局長とラジオ局長がそれぞれ報告しました。

◆ 衆院選開票特番について

9月の衆院選開票特番の視聴率等の結果について、報道局長が報告しました。

以上